

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人あすなる会	代表者	竹内一夫	法人・事業所の 特徴	ほぼ同敷地内に法人の保育園、福祉施設があります。園児さんとは、法人行事を通してだけでなく日頃より交流があり、園児さん利用者さん双方にとって心とむい良い時間となっています。笑顔をとくさん見れるよう家庭的な雰囲気や大切に、役割のある喜びを感じていただき、季節の行事やお出かけ、料理、お菓子作りなどとりいれています。家族さんもゆとりをもって介護できるよう状況によっては都度必要なサービスを柔軟に提供し、在宅での生活を日々かわりなく過ごされるよう支援します。
事業所名	あすなる多機能型居宅介護施設	管理者	飯塚久代		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	人	人	1人	1人	4人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	31年度も職員全員で改善計画を達成するための目標を毎月掲げる。目標をより意識するために、毎月の目標を事務所内に掲示する。ヒヤリハットの原因と対策は当日のうちに取り組む。自己評価についての研修を31年度も事前に行う。	毎月、職員会議で決めた目標に取り組むことで、サービスの質の向上に努めた。目標を事務所内に掲示し、目標を意識しながら業務に取り組むことができた。ヒヤリハットの原因と対策は当日中に取り組むことができたが、少人数での振り返りになった。	全職員で月毎に目標を掲げ、リスクマネジメントや情報共有の仕方など、より良くなるように取り組んでいた。運営推進会議でその経過を報告し、委員より意見を募っていた。送り業務や訪問があり、その日の業務やヒヤリハットを振り返る「終礼」に日勤者が揃って参加することはできていなかった。	より良いサービスの向上に向けて、各項目の改善計画を各々がしっかりと理解し取り組む。当月の目標について、各自で職員会議までに振り返り、翌月の目標設定までを行い、参加者でのグループワークにて決定し、運営推進会議時に報告し意見をいただく。朝タのミーティング時に、その日の気づきを振り返る。
B. 事業所のしつらえ・ 環境	壁面作りを利用者全員で取り組み、達成感を感じて頂き、話題のひとつにしてもらう。宿泊する方の部屋は安心感ができるように、その人らしさができるように利用者と話し合う。あすなる畑だけでなく、利用者の方ひとりひとりにプランターで植物を育て頂き楽しみのひとつにして頂く。	ほぼ毎月、壁面の作品作りを行えた。利用者さんでも話題にして頂ける方がおられた。2Fの壁面作品は途中よりしなくなった。利用者さんの宿泊する部屋の飾りは利用者さんが作ったカレンダーを飾るほどだった。一人一鉢運動は取り組みは行ったが開花することはなかった。	園児さんからの絵手紙や絵が飾ってあるとホール内の雰囲気明るい。干支の貼り絵も良かった。二階は一階に比べて作品掲示が少なかった。畑で育てた野菜を利用者さんが収穫されて、喜ばれていた。一人一鉢運動では、花の種を蒔いたが暑さのためか育たなくて残念に感じた。	利用者さん一人ひとりにできる作業を分担して行ってもらう、季節ごとに大きな壁面飾りを作成し、達成感を感じて頂く。二階ホールの掲示物は宿泊時、楽しい話題になるように一緒に考え掲示する。あすなる畑で野菜を育てることの楽しみを持ち続けて頂く。一人一鉢は球根を植えて、今年こそ開花を目指す。
C. 事業所と地域の かかわり	コミセンの文化祭出展を目指して、利用者さんと作品を作る。近隣や、出掛けた先で積極的に挨拶をする。ボランティアさんに来て頂き、交流がより活発になるようにする。「高松マップ」や、新聞、広報等を見て、利用者さんと話し合い、おでかけの計画を立てて、積極的に出かける。	コミセンの文化祭に紙すきはぎを出展することができた。多機能での活動を知ってもらえてよかった。近隣の方に挨拶をすることができた。継続してボランティアさんにも来て頂いている。高松マップを活用しておでかけすることはなかった。	高松コミュニティセンターの文化祭に作品を出展していた。高松マップを活用したおでかけはできていなかったが、利用者の方の希望に沿った場所や、懐かしい場所には出かけていた。定期的に来られる、馴染みのボランティアさんとの交流を続けられると良い。	来年度もコミセンの文化祭に向けて、利用者さんと一緒に作品作りに取り組む。ボランティアさんとの交流を継続し、活発な交流を目指す。高松マップを活用したおでかけを計画する。その他、新聞、広告、利用者さんや家族さんからのお話などでおでかけできそうな場所の情報を集め、利用者さんと話し合い、計画を立て積極的に出かける。
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	毎年参加している行事などには引き続きでかけ、地域との交流を続ける。できるだけ利用者の方の希望に沿った外出計画を考え、そのひとらしさができるように努める。	毎年参加している行事に今年も参加ができた。それだけでなく、新しい催し物や場所にもおでかけすることができた。利用者さんにどこに行きたいか聞いておでかけすることができた。	利用者さんの希望に沿った外出をしていた。高松のコミセンの文化祭や高松小学校の学習発表会など、地域の行事に参加していた。	毎年参加している行事での地域との交流を続ける。そのひとらしさが出る外出計画を利用者さんと一緒に考える。新しい場所におでかけをする際は、下調べをして利用者さんに危険な場所がないかなど、職員間で情報を共有し確認する。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	31年度も、職員は順番に参加する。近くの地域密着型デイサービスさんに出席して頂けるようお願いする。	職員が順番に運営推進会議に参加することができた。近くの地域密着型デイサービスさんにも出席していただいた。	運営に関わる貴重な機会なので、職員には順番で運営推進会議に出席を続けてもらいたい。	職員は運営推進会議に順番に出席する。運営推進会議で幅広い意見を募り、運営に活用する。
F. 事業所の 防災・災害対策	防災訓練計画に沿って訓練を行い、振り返る。運営推進会議時報告する。避難経路にもものを置かない、整理整頓するなど職員各自が常に災害意識への意識をもち取組み、お互い声掛けする。	防災計画に沿って訓練を行った。避難経路に物を置かないなど、整理整頓を意識することはできたが、敬老会などの前になると準備するものが多く、置き場所に困って、階段などに物を置くことがあった。	火災訓練、水害訓練、震災訓練を防災訓練計画に沿って、スムーズに行っていた。避難経路が確保できていた。	防災訓練計画に沿って訓練を行い、振り返り、運営推進会議時に報告をする。常日頃から整理整頓を意識し、避難経路を確保する。職員は常に災害への意識をもち、災害への対策をする。